【提案項目】
30　水災害リスクを踏まえた流域治水対策の推進について

【提案要旨】各水系毎の災害常襲区域における流域治水対策

■提案事項

○　各水系毎の災害常襲区域における氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策を図ること

　近年の地球温暖化等による気象災害の頻発・激甚化や急激な市街化に伴う新たな宅地開発や地面の舗装等による雨水の河川への流出量の増大に対して、内外水氾濫等により災害常襲区域の浸水被害が拡大している。

　「流域治水プロジェクト」に基づく総合的・多層的な治水対策を強力に推進するため、緊急自然災害防止対策事業債の期間延長や、さらなる財政支援などの新規制度の創設や黒瀬川水系をはじめとした市域における各水系において特定都市河川浸水被害対策法の活用も含めた取組みを県・市流域治水協働チームの編成により流域一体で進める必要がある。

【提案先：広島県】

30　水災害リスクを踏まえた流域治水対策の推進について

東広島市の現状と課題・取組状況

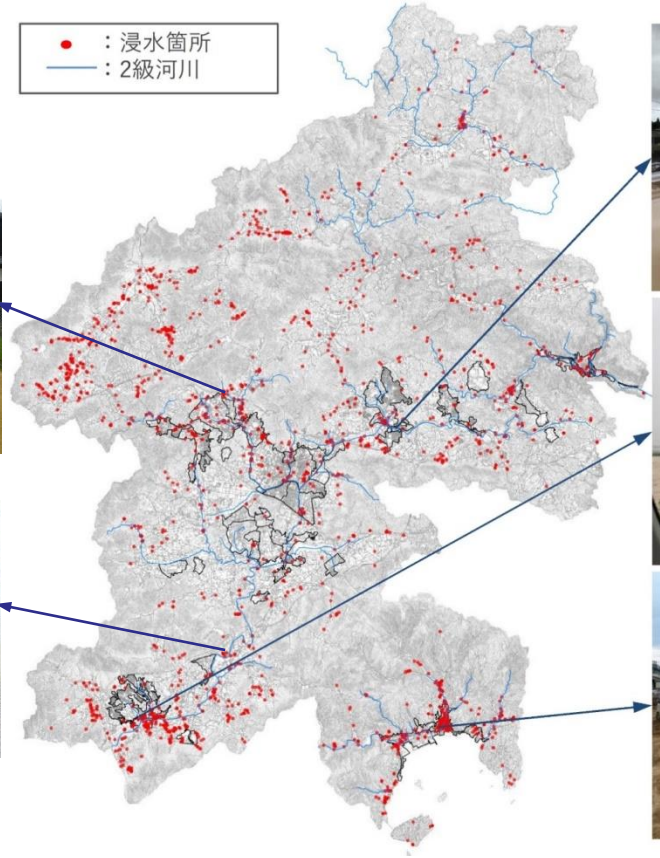
○ 地球温暖化に伴う異常気象により、災害常襲区域は内外水氾濫により浸水被害が頻発・激甚化している。

○ 広島県と連携して各水系毎の流域治水プロジェクトの策定、「東広島市域における総合的な治水対策協議会」を設置し、浸水被害を軽減するための治水対策の検討を進めている。

○　浸水被害の防止・軽減を図るため、「流域治水プロジェクト」に基づく普通河川の改修、雨水貯留施設整備、ため池の活用、防災まちづくり等の総合的・多層的な治水対策を強力に推進するために必要な財政支援等の新規制度の創設が必要である。

○黒瀬川水系における特定都市河川浸水被害対策法の活用等による取り組みを県・市流域治水協働チームを編成により流域一体で進める必要がある。

降雨と浸水被害の関係（H22～H30）

年度	総雨量（mm）	床上・床下浸水（件）
H22(2010)	71.0	199
H23(2011)	56.5	3
H24(2012)	69.5	7
H25(2013)	193.5	13
H26(2014)	134.0	74
H27(2015)	70.5	4
H28(2016)	213.5	85
H29(2017)	—	0
H30(2018)	521.0	1,146

平成30年7月豪雨による浸水箇所位置